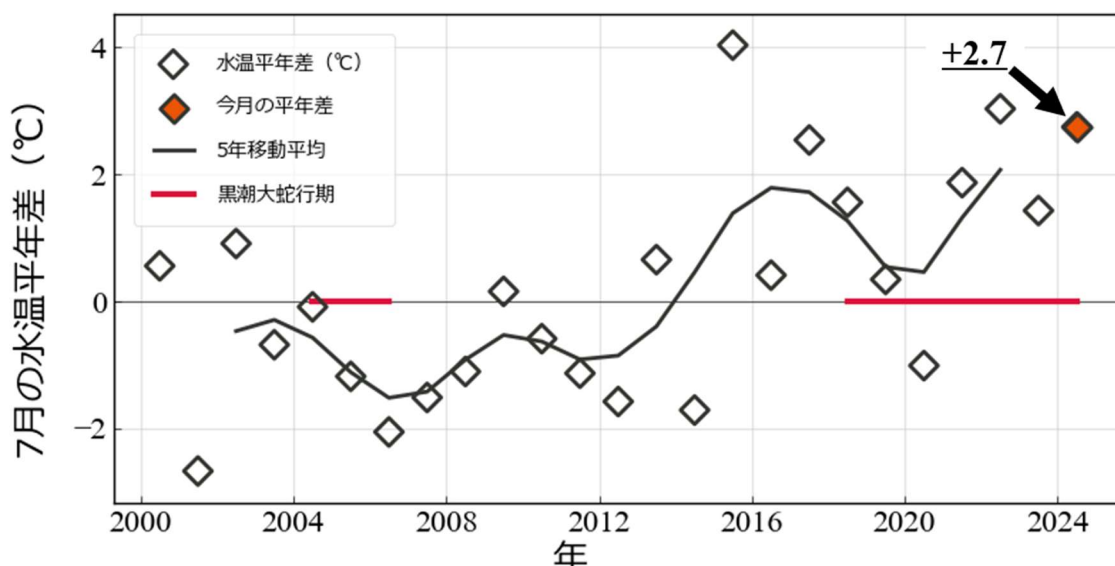


【水温の変動】

7月18、19日に、調査船海幸丸により渥美外海の観測を実施しました。

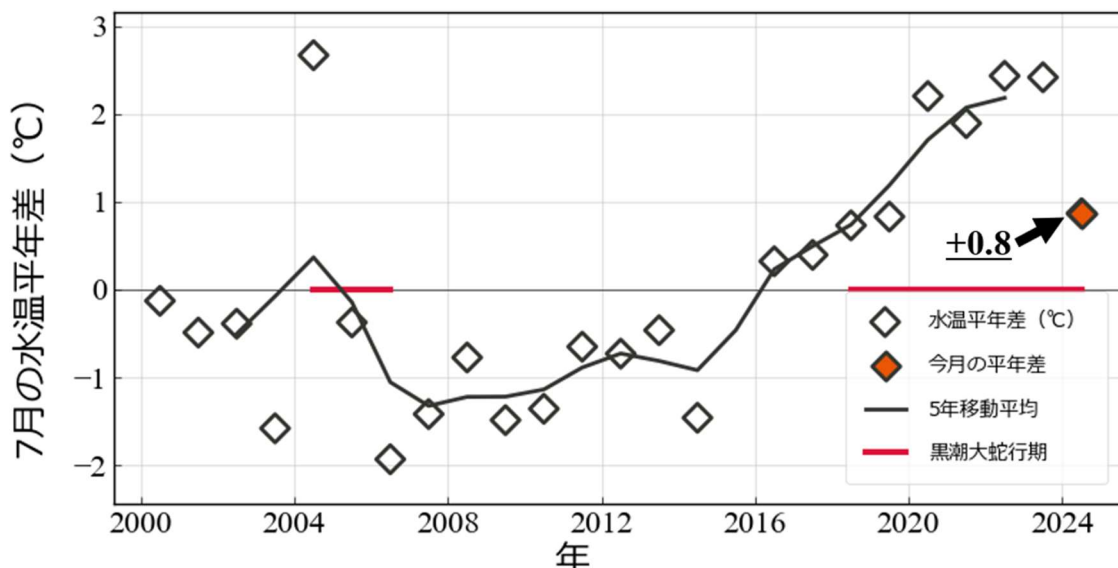
湾口部の海面水温は、 $+2.7^{\circ}\text{C}$ で極めて高めとなっています。一方で、沖合域水深200mの水温は、 $+0.8^{\circ}\text{C}$ でやや高めであり、2017年8月から始まった黒潮大蛇行以降で過去3番目に低い値でした（18年： $+0.73^{\circ}\text{C}$ 、19年： $+0.83^{\circ}\text{C}$ ）。7月18日の人工衛星画像によると、黒潮は御前崎沖北緯31度付近から石廊崎沖北緯34度へ向かって北上するA型流路となっており、先週のAs型流路と比べて、北上部が御前崎正南から東へ移動したものの、渥美外海の海面水温は、黒潮系暖水の波及の影響で高温傾向となっています。

湾口部0m (A1) における7月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去30年平均値との差

沖合域水深200m (A4, A12, A19の平均) における7月の水温平年差の変動



※水温平年差は過去50年平均値との差

【渥美外海の海況】

海面水温の分布によると、黒潮系の暖水は渥美半島沿岸に向かって南西方向から波及しています。また、水温の鉛直断面図によると、沖合域の水深 100m 以深では沖に向かって水温が低くなっていることから、西向きに流れていると考えられます。沿岸域では、比較的に水温の低い水塊の湧昇が見られ、この水塊の直上でクロロフィル a 濃度が高くなっています。

水温の水平分布図と水温, 塩分, 密度, クロロフィル a 濃度の鉛直断面図

